



12月17日 東地申第29号

提出!!

「2020年度営業関係施策(その3)」についての申し入れ【上野駅】

現在、会社より上野駅の中央券売機室・業務委託や出札体制の見直しが示されています。

上野駅の中央券売機室が委託されれば...

多機能券売機の保守対応すら担当しなくなってしまう!

上野駅の出札体制が縮小されれば...

オリパラや繁忙期に対応できるのか、疑問が生じる!

「新たなジョブローテーションの実施」にあたり、会社は『「お客さま第一のマインド」を習得するため、入社時の配属を駅とする』としていますが、業務委託化により、働く場所・業務知識を活かせる場所がどんどんなくなり、お客さま第一のマインドを習得する場所が失われつつあります。

JR東日本社員の働く場所はどんどん失われている!

私たちの『駅』は、将来どうなってしまうのだろうか!?

<地本は以下の7点を会社に申し入れました>

1. JR東日本が運営するべき駅の考え方は「常時運転取扱いのある駅」「新幹線停車駅」「地区駅」とすること。
2. 一部委託を進めるにあたり、JR東日本とJESSの間でサービス低下ととれる事象が日常発生しているが、支社の認識を示し、具体的改善が図られるまで、中央券売機室の業務委託は中止すること。
3. 中央券売機室を業務委託する必要性について具体的に示すとともに、券売機の運用に関する教育、多様な機種種の保守スキル維持の観点からJR東日本で運営すること。また、今後のJR東日本社員の券売機の扱いに関する教育、営業のプロを育成する考え、JR東日本社員の役割について具体的に示すこと。
4. 中央券売機室を業務委託する場合には、コーナー端末の切り離し及び変更作業を完了させたのちに実施すること。
5. 中央出札窓口を体制変更する必要性について具体的に示すこと。また、窓口後方体制については、随時対応できる体制とすること。
6. 現在の出札窓口を作業ダイヤ通りに開設できる体制とすること。また、毎月25日の勤務発表時において、標準作業ダイヤ内の勤務が全て指定されていないことから、標準作業ダイヤ内の勤務を全て指定すること。
7. 訪日外国人旅行者で混雑する期間や異常時にお客さまをお待たせしない体制とするための考え方を具体的に示すこと。また、オリンピック・パラリンピック開催に向けた駅の要員体制等を前広に周知し、大会期間中の超勤が常態化しない駅体制とすること。